

コロナ対策で室内換気に注目

高まる網戸需要

新型コロナウイルスの感染防止対策で室内換気に注目が集まり、網戸の買い替えや張り替え需要が急増している。近年は道内でもエアコンの普及が進むが、多くの機種は換気機能がないため、屋外から風を取り込むと窓を開ける機会が増えているためだ。苦小牧市内でもメーカーやホームセンターなどに網の交換や新規購入の依頼が寄せられており、業者らが対応に追われている。

— 苦小牧市内 —

今年3月に全面オープンし、住宅リフォームなどを手掛けるNisho(日照)は、5月中旬から網戸の張り替え注文が増えたという。6月のピーク時は担当社員2人が1日数十件の交換作業に対応。藤田靖司支店長は「登別や室蘭、白老からも依頼を受けた」と話す。

同社では、戸建てや集合住宅など約50種類の網戸製造を自社工場に対応しており、受注から窓の採寸、納品まで10日ほどでできるという。人気なのは手軽さが特徴のスライド式網戸(高さ130センチ、税別1万8000円)。8月中旬に入っても注文の多い日があったといい、交換や買い換え需要は続いているようだ。

コメリパワー苦小牧西店(明徳町)でも今夏、網戸の売り上げが前年同期比5割増と急伸した。依頼の多くはシニア世代からで、網の張り替え注文は前年の3倍。持ち込まれた網戸の張り替えにも対応しているといい、担当者は「網の目が細かい商品もある」

交換や買い替え 売り上げ伸びる



新型コロナの流行で注目が高まっている
網戸 日照苦小牧支店

とアピールする。全国のサッシや網戸の製造メーカーなど160社が加盟

する日本サッシ協会(東京)によると、例年は夏前に引き合いが強まる傾向にあるが、今年は新型コロナウイルスの影響で4〜6月に増加。前年より売り上げが2割ほど増えた事業者も多いという。

同協会の照瀬大海(ふとみ)事務局長は「玄関に網戸設置を希望する人も多かったよ」といい、今後は需要が落ち着く見通しとしている。

市消防本部の職員と消火体験を行う園児



防災意識 園児60人が消火体験

苦小牧市シルバー人は2日、防災週間(8月5日)に合わせた自児のころに火の用心の出町の日の出公園で町の認定こども園幼児(三上順子園長)の園参加し、消火体験など災の大切さを学んだ。

園児に防災意識を持つと初めて開催。日のセンターが指定管理者より水道が使えなくな緊急対応用の水道機材急貯水槽を備えている会場として活用した。

市消防本部の協力で車両が登場し、園児は署員と一緒に放水。用の消火器による消火体験、大きな声で「火事さ、的に狙いを定めて水を当てた。年長の杉(5)は「ホースの先かった」と笑顔。坪井希は「消防の人がかっこいい目を輝かせていた。」

新型コロナについての相談窓口

東胆振1市4町の住民
(苦小牧市、白老、厚真、安平、むかわ町)

苦小牧保健所 電話0144(34)4168

日高管内
(浦河、様似、えりも町の住民)

浦河保健所 電話0146(22)3071

(日高、平取、新冠、新ひだか町の住民)

静内保健所 電話0146(42)0251

平日:午前8時45分~午後5時30分

夜間や土日祝日の場合